

吉田 稔 筆

令和4年10月 No.142

● 編集・発行
 柏市増尾地域ふるさと協議会
 (土地区社会福祉協議会)

〒277-0033
 柏市増尾三丁目1番1号
 増尾近隣センター内

☎ 04-7174-7211

みんな元気 住んで良かった この地域

たくさんのホタルに感動

文化体育部主催「ホタル見学会」

6月28日(火)、午後7時40分に増尾近隣センターからホタルの見学会場へ出発です。参加者は幼児から高齢者までの56名。暗い林の道を懐中電灯を照らして歩き、10分ほどで中原小学校下の見学会場に到着です。

「柏ホタルの会」会長、佐野泰如さんの説明を受け、いざ見学会場の暗い通路に入ります。初めは暗くて足元が不安でしたが、手すりをつかんで進んで行くうちに暗闇にも慣れました。今年は例年よりたくさんのホタルが飛んでいて皆さん大興奮!!初めて見ました!何年ぶりだろう!いっぱいホタルがいる!等々の歓声が聞こえま

した。興奮冷めやらぬ中、「柏ホタルの会」の皆さんにお礼を言い帰路につきました。

「柏ホタルの会」の役員の方々に、今年はどうしてホタルが多いのかを教えていただきました。親ホタルの捕獲を見学会の後ですることにしたため、今までの見学会よりたくさんのホタルを観ることができたようです。

「柏ホタルの会」の皆さんが親ホタルの捕獲、幼虫の飼育、ホタルの森の清掃や整備などの活動を1年にわたり地道に行うことで素晴らしいホタルの見学会ができました。
 文化体育部 小林 みつえ



私の町会・自治会だより

皆さんの町会・自治会を紹介していくコーナーです。

増尾東映自治会

増尾東映団地は、昭和40(1965)年代から宅地造成と分譲が始まり、令和4(2022)年4月時点で、居住世帯数は約160戸となりました。自治会活動は50年以上に及びますが、その間の社会変化に応じて形が変わりました。かつては数年間同じ役員の方々が複数の活動を担当しましたが、現在は毎年度役員を交代し、定期的に活動を引き継ぎ、内容の理解と見直しを行うと共に、活動範囲を明確にして個々の負担を軽減するようにしました。また、住民の中からボランティアを募り、エンジョイパトロールを毎年で行っています。この活動は、今では防犯防災だけでなく、肩肘が張らない形での見守りや課題発見の機会として機能しています。

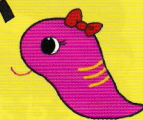
今、重要な課題のひとつとして、進学や就職に伴

う若年者の転出、住民の高年齢化、独居世帯の増加などがあり、自治会活動を含めた共助体制の確立と強化が必要です。共助体制も、現在の社会の在り方を反映し、どこか一か所でも損われると全体が機能しなくなる階層型から、損われても別で補えるようなネットワーク型に変える方が良いのでは、と個人的に考えます。

そのような融通が利くやり方にするために、経験豊富な年長者と多くの可能性と選択肢を持つ若者との間で交流し、互いの思いをぶつけて意欲を高め合い、やがて「ここならば生活を続けたい」と思ってもらえるよう心掛けながら、出来る範囲で活動する毎日です。
 会長 御園 康仁



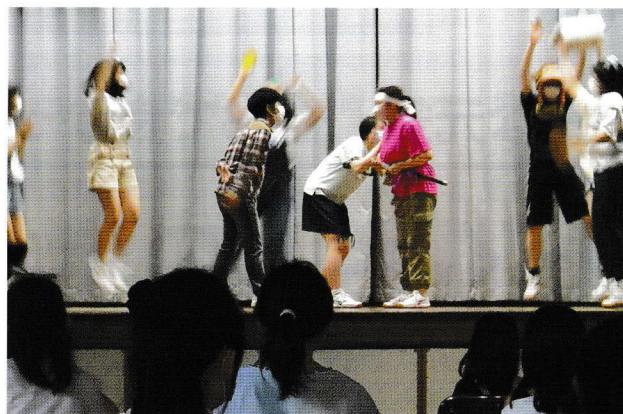
「サロンつちのこ」リニューアル記念 つちのこまつり



6月4日(土)午前10時から土小学校において、「サロンつちのこ」のリニューアル記念「つちのこまつり」を開催しました。土小学校のリノベーション工事とコロナ禍の影響で、令和2年度からお休みしていた「サロンつちのこ」が7月からの本格的な始動に先駆けてのフェスティバルです。当日は、新型コロナウイルス感染予防を考慮し、会場を体育館、第4校舎、校庭に分けて人数制限をしながらの2部構成にしました。

式典では、土小学校梅津健志校長と増尾地域ふるさと協議会青柳直樹会長からご挨拶をいただきました。体育館では、今回のイベントの目玉でもある柏南高等学校の公演「シンモモタロウ」という創作劇が行われました。校庭では、竹製竹とんぼや牛乳パックで作った竹とんぼ、竹水鉄砲、大型シャボン玉などを体験しました。第4校舎の多目的室では、割りばし鉄砲やストラックアウト、輪投げと全て手作りのゲームで楽しみました。

ふるさと資料室では、昭和初期、中期の生活民具が展示されていて、縄ない機を使った「縄ない(編み)」の実



柏南高校生徒たちの熱演「シンモモタロウ」

演や指導も行われました。資料室に因んだクイズもあり、子どもたちは一生懸命に展示物を見て答え探しをしていました。子どもたちに語り継いでいきたいさまざまなものが詰まった資料室をずっと有効的に活用していくべきと感じました。

どこのコーナーも大盛況で地域の方々を含め250名以上の参加がありました。

サロンつちのこ 押味 富士子

貴重なふるさと資料室

柏市立土小学校の「ふるさと資料室」をご存じですか。

土小学校創立100周年の記念事業のひとつとして、平成10(1998)年に、第4校舎3階の空き教室を利用して開室されました。昭和初期の暮らしの様子を伝える資料室です。2室あり、1室は学校関係の資料を展示する「土小学校の移り変わり展示室」、もう1室の「昭和初期のくらしと道具展示室」には民家の茶の間や台所が再現され、衣装箆笥や足踏み式のミシン、かまどなど懐かしい生活用品や多数の古い農機具が展示されています。これらのほとんどは地元の方々からの寄贈品です。

この資料室は、普段は入れませんが、「サロンつちのこ」のイベントや地域団体のウォーキング大会の際など折に触れて公開されています。8年前に「サロンつちのこ」がオープンして以来、ボランティアの人たちが、収蔵品の寄贈者のおひとりで地域の暮らしや歴史に詳しい平川喜治さんのアドバイスで点検、整備をしてきました。

収蔵品の中でも特に農機具の種類は豊富です。手押しの水田除草機具「八反(はったん) 転がし」、稲の穂から

もみを取り出す「千歯こき」、穀粒を穂から取り出す「足踏み式脱穀機」、米とぬかのふるい分けに使う「万石(まんごく)」、風力でもみがらやごみを飛ばす「唐箕(とうみ)」など。これら木製農機具の作りの精巧さや役割の細分化には驚かされます。

「つちのこまつり」の準備の時、平川さんは古びた網を手に取り「この網は元々漁業用で、古くなったのを安く買って、蔓(つる)もの野菜の栽培用ネットとして再利用した」と説明。またワラは、縄やむしろになり最後は肥料になるその有用性を話してくれました。

平川さんは「縄ない(編み)」や「むしろ編み」の指導も行っています。古い道具を保存するとともに、使い方を伝えていかないと文化の伝承は途切れてしまいます。

この「ふるさと資料室」が地域の交流の場として更に



資料室で説明をする平川さん

活用されればと思っていたところ、土小学校から「コミュニティー・スクール」で学習の場とするお話がありました。今後どのような形で協力できるかを話し合っていく予定です。

サロンつちのこ

温暖化による気象と災害

文化体育部

文化体育部主催の気象講座「温暖化による気象と災害について」が6月29日（水）に増尾近隣センターで開催され、35名が参加しました。

講師の古川武彦さんは1940年生まれ。気象学者、理学博士。元気象庁職員で予報部予報課長や札幌管区気象台長などを歴任し、現在は「気象コンパス」代表として気象情報を発信しています。

著作は『気象庁物語』『天気予報入門』『気象学入門』など共著も含めて多数あります。

この企画は、古川さんの旧友である当ふるさと協議会川柳講座講師、佐竹明吟さんのご紹介で実現しました。

講座の内容は ①気圧・水蒸気とは ②気象観測システム ③雲の仕組み ④台風は時計回り？ ⑤地球温暖化問題の5本立てです。

鹿（しし）おどしと同様の原理を利用した「転倒ます型雨量計」やゴム気球を使って高層の大気を測定するラジオゾンデは実物を使っての説明。また、筒に水を入れてティッシュを掛け、逆さまにしてもこぼれない「気圧」の作用を可視化する実験。ペットボトルと蚊取り線香の煙を使っての雲の生成の実験など。ゴム気球のやわらかさを実感し、気圧の実験を自宅でも再現し大成功でした。

地球温暖化問題では、大気中の二酸化炭素濃度と気温の上昇、海洋の酸性化、海面水位の関連をそれぞれのグラフで分析。いかに私たち人間が温暖化に大きな影響を及ぼしているか、よく分かりました。約2時間ノンストップ、情報満載の講座でした。

気象庁の定義によれば異常気象というのは「気候が平均的状态から大きく偏った状態」であり、基準は「過去



気圧の作用を可視化する実験です

30年以上」とありますが、近年は異常が常態化している印象があります。講座開催日当日も6月としては異例の高温となった日でした。

参加者から、第2回の開催を要望する声が多く上がりました。

総務広報部

親子のふれあい遊び

ちびっこ体操教室



おなじみ、石原由紀子先生の掛け声で集まるちびっこたち

7月3日（日）、増尾近隣センター体育室において、2歳から5歳のちびっこを対象に文化体育部主催「ちびっこ体操教室 親子のふれあい遊び」を開催しました。講師にはおなじみの石原由紀子先生をお招きし、10組の家族17名が参加しました。

この2年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になっていましたが、今年は参加人数を制限して行うことになりました。初めに親子で準備体操です。お父さん、お母さんと一緒に音楽に合わせて体を動かします。最初は恥ずかしそうな様子でしたが親子で体操をしていくうちにだんだんと慣れてきて、いつの間にか元気いっぱい体を動かしていました。体がほぐれてきたところで、たくさんの遊び道具が登場。体育室に円を描くように並んだ「段ボールトンネル」や「ハードル」、「5体のロディ」などを、ぐるっと順番に回っていきます。体育室内には万国旗や紙のお花が飾られていてまるで運動会のようなでした。今年は特に暑い夏でしたが、子どもたちは暑さを忘れたようにニコニコ笑顔で元気に遊んでいました。

体を動かした後は工作です。新聞紙を使って帽子と剣を作りました。みんな上手に出来上がり、楽しく戦っている親子もいました。我が子はすっかり大きくなり「かわいい」時期が過ぎてしまいましたが、ちびっ子の無邪気に遊ぶ姿に微笑ましい気持ちになりました。

文化体育部 吉田 春奈

◆ふるさと協議会ではホームページ作成に携わったことがある方を募集しています。総務広報部嶋田まで。
yukie2114@kba.biglobe.ne.jp



ふるさと協議会
QRコード

ますお今昔ものがたり 増尾町会

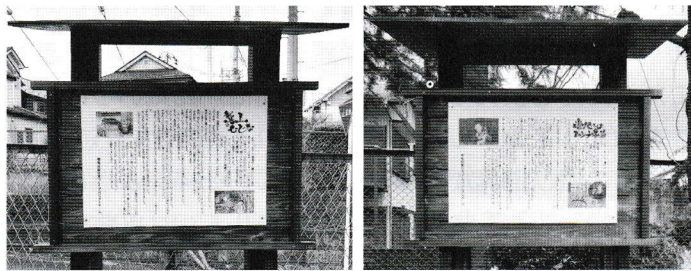
6月26日(日)、土小学校の体育館において、「ますお今昔ものがたり～民話の中の増尾村～」と題し、お話し会を開催しました。増尾町会内の「民話の里づくりプロジェクト」が主催し、増尾に残る民話を題材とした町おこしの一環としての企画です。

当日は太田和美柏市長をはじめ、柏市教育委員会、柏市観光協会などからも多数の方をお招きし、また地域の方も100人以上が参加され、大規模なイベントになりました。

柏市観光協会の事務局長中島貴洋さんに講演をしていただき、増尾に残る民話の紹介、そこから想像される昔の増尾の人々の生活や心情、今と昔の地理的な比較、さらにはNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」とのつながりに至るまで、古くから増尾に住む方々にも初耳という逸話も含めてお話しをしていただきました。

今後は、お散歩マップの作成や昔話の案内板の設置、民話の小径づくり、そして各小中高校と連携して民話に関連したイベントの開催など、地域の方々がもっと増尾の民話を身近に感じ、地域に愛着と誇りを持っていただけるきっかけとなるように活動していきます。

増尾民話の里づくりプロジェクト 築田 善弘



鷲ノ山公園に「鷲山のもじな」(左)、堂谷第二公園に「常使えのムジナ退治」(右)の昔話の案内板が設置

こころ安らぐひと時を

「増尾ジェンヌの会」は久しぶりに増尾近隣センターにおいて6月22日(水)と7月12日(火)に「アロマハンドトリートメント」を開催しました。

6月22日は柏市健康診断があり、多くの地域の皆様の参加によって、活気にあふれた会場となりました。

参加者からは「コロナを忘れてゆったりした気分になりました。次回は楽しみです」とのお声をいただき、うれしくなりました。 増尾ジェンヌの会 新坂 はる枝

二人でクッキング テイクアウトのメニューを 地区社協部

8月7日(日)、増尾近隣センター調理実習室にて「二人でクッキング」を開催。3年ぶりということで8組の募集に対して60組の応募をいただきました。

今回は、コロナ禍の中でもあり、持ち帰っておいしく食べられるメニューとして、どうぶつパン、ミニピザ、フルーツ寒天ゼリーを作りました。普段はゆっくり子どもと一緒に料理をする機会が少ないお母さんから感謝の言葉をいただきました。 地区社協部 砂越 慎平



お母さんと一緒に作ったおいしいパンとピザ、早く食べたいね

ふるさと協議会からのお知らせ

10月13日(木) 心がふれあうアロマ講座

10月29日(土)～30日(日)文化祭

10月29日(土)～30日(日)防災パネル展

10月29日(土) 地域ふれあいのつどい

11月 ちいき探検ウォーキング

12月 つくってあそぼ

12月18日(日) 年末夜間パトロール

※詳細は、回覧、チラシなどでお知らせします。

※「敬老のつどい」(9月18日実施予定)は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。

ボランティア募集中

障がい者福祉施設で、毎月第2・第4水曜日、午前9時30分から12時まで、簡単な作業(園芸、手芸他)のお手伝いをしてくださる方を募集中。

地区社協部 田嶋(TEL 7172-4683)まで、お問い合わせください。